

NIA Letter

Vol.
19
2020.3

発行元／公益財団法人新潟県国際交流協会 (NIA) Niigata International Association



今号の表紙

- (左) 災害時外国人支援研修 2019 (2019年12月8日開催)
- (右上) 令和元年度国際理解教育プレゼンテーションコンテスト (2019年12月21日開催)
- (右下) 外国人相談センター新潟 (2019年10月1日開所)



Contents

特集

国際交流から始まる 多文化共生

新潟産業大学 アンワルジョノフ・アッボスさん、新潟食料農業大学 キム・ソヒョンさん、新潟大学 タン・チェイ・イエンさん

▶ 2

- 外国人相談センター新潟 OPEN! 4
- あなたに会いに！企業へGO
株式会社東日本福祉経営サービス グエン・ティ・トゥ・ハさん 5
- NIIGATA 春の楽しみかた ～留学生特派員 Team BEGIN～ 6
- NIA REPORT 国際理解教育プレゼンテーションコンテストほか 7
- NIA INFORMATION NIA賛助会員募集！ほか 8

NIA公式Facebook





国際交流から始まる 多文化共生

多文化共生

“国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと”

(総務省)

新潟県国際交流協会では、県内で積極的に国際交流活動に取り組む留学生を「留学生交流委員」に任命し、その活動を支援しています。今号では、3名の留学生交流委員から地域での国際交流活動や、自ら企画し実施する活動についてお話を伺いました。前号からのキーワードである「多文化共生」の視点から、留学生が活動を通じて感じたことについてご紹介します。



「柏崎版生活ガイドマップをつくろう！」

私は、今年の4月に留学生交流委員のメンバーに加わりました。留学生交流委員の活動に参加することで、日本とウズベキスタンの架け橋になりたいと思ったからです。5月に入ってすぐ柏崎地域国際化協会から柏崎版生活ガイドマップの作成イベントに招待され、参加することになりました。

イベント当日は、日本の企業で働き、日本で生活している8カ国の代表の外国人が集まりました。コスタリカ、バングラデシュ、ウズベキスタンなどさまざまです。最初はレクリエーションから始まりました。用意された写真に写っているものが、どこの国から輸入されてきたかを当てるゲームです。写真の中の細かいポイントから、正解の国を予想するのは大変でした。

私がマップを作る上で特に大切にしたいことは、イスラム教徒の人でも安心して食べられるハラールフードのレストランを書くことです。私の住んでいたウズベキスタンでは、イスラム教が国の宗教です。イスラム教には、食べてはいけない食材があります。例えば豚肉やアルコールなどです。日本のレストランで食事する時は、豚肉を使っているか分からないので、食べる前に確認する必要があります。そんなイスラム教徒の人でも安心して食べられる料理が、ハラールフードです。このハラールフードを提供しているお店をマップに書くことで、イスラム教徒の人でも安心して食事ができると思いました。

- 1 レクリエーションのようです。
- 2 マップ制作は、参加者と会話をしながら和やかな雰囲気が進んだ。
- 3 ハラール認証マーク。



マップの制作は、8人1組の2グループで行いました。質問をしながらお互いの知識を教え合い、2時間近くかけて街の地図を作成しました。マップには、英語と日本語で文字が書いてあります。日本語が得意でない留学生も多いので、英語の表記はとても大切です。また、2020年には東京オリンピックがあります。この機会に日本を訪れる多くのイスラム教徒にとって、このマップが役に立つと良いなと思っています。

私はこのイベントを通してたくさんの友人と出会い、たくさんの知識を得ることができました。これからも異文化交流のイベントには積極的に参加し、たくさんの知識を得ることで、私の出身国ウズベキスタンと日本との関係をさらに深めていきたいと思っています。



アンワルジョノフ・アッボス

ウズベキスタン出身 新潟産業大学経済学部2年(柏崎市)

東京の日本語学校を卒業後、2018年より同大学に入学し、経済学を学んでいる。現在大学では、留学生支援を行うチャーターとして活躍するほか、芸術文化部に所属し、日本の伝統舞踊の練習に励んでいる。



「国際交流キャンプ in 胎内」

- 1 村上市歴史巡りツアー出発前のようす。
- 2 「千年鮭 きっかわ」では、村上鮭の加工工程などを学んだ。

NIA から「国際交流キャンプ in 胎内」の案内メールが届いたとき、私はまず「村上市内歴史巡りツアー」に興味を持ちました。私は毎日村上行き電車に乗って大学に通学していますが、実は一度も村上へ行ったことがなく、いつか行ってみたいと思っていました。また、キャンプは大学のキャンパスがある胎内市で開催され、日本人の中高生たちと村上市の歴史や文化を学びながら、国際交流を通じて異文化理解を深めることができます。

1泊2日での活動で最も記憶に残ったのは、村上市内歴史巡りツアーと交流会でした。村上市内歴史巡りツアーは、グループに分かれてメンバーがそれぞれ行ってみたい場所について話し合い、自由にツアーをするというものでした。グループのメンバーとは初対面で緊張しましたが、話し合いを重ねることで緊張感も和らぎ、活発な意見交換をすることができました。日本人の学生たちとは、自分が興味を持っていることや日本と韓国で経験したことなどについて話しながら、村上市内を巡ることができました。当日は30度を超える蒸し暑い日でしたが、暑さも感じないほど楽しい時間となりました。ツアーでは「千年鮭 きっかわ」という店を訪ね、店員さんから鮭について詳しく説明していただきました。鮭を見るだけでなく、持ってみることもや味わうこともできました。また、郷土資料館では村上市の祭りの歴史動画を観ることができ、村上市についてさらに深く理解することができました。日本人の学生たちとの歴史巡りツアーであったため、より楽しく新潟県について知ることができました。

ツアーが終わった後は、参加者がお互いの国の文化について理解を深めることを目的とした交流会がありました。留学生が自身の出身国について15分間程度で発表し、後半は質疑応答の時間がありました。当日はチマ・チョゴリを着て発表しました。久しぶりに着たため、自分がチマ・チョゴリを着

た姿に慣れず、恥ずかしかったです。

発表が終わった後は、日本人の学生たちが私に話しかけてきて、「一緒に写真を撮りたい!」、「チマ・チョゴリ、綺麗!」、「私も着てみたい!」などチマ・チョゴリについて興味を持ってくれる姿を見て、嬉しかったです。

私は韓国のことについて発表しましたが、出身国のことだから簡単に説明できるだろう、と甘く考えていました。しかし、実際の発表では上手く説明することができませんでした。質疑応答のときも、国旗の意味など深い質問が多くありましたが、上手く答えることができず、私にとって非常にショックで辛い経験となりました。

ただ一方では、多くの質問を通じて、「外国人の視点で見ると韓国はこのように見えている」ということを理解でき、貴重な経験となりました。それまで私は、多くの人に文化や言葉など韓国のことを知ってもらいたい、と思っていました。しかし実際の私は、韓国人だから韓国についてはよく分かっている、と甘く考え、正確な意味も分からず知ろうともしませんでした。今後は、自国についてより正確な情報を理解し、異文化交流に臨めるよう、よりいっそう勉強を頑張りたいと思います。



キム・ソヒョン

韓国出身 新潟食料農業大学食料産業学部2年(胎内市)

同大学の一期生として、昨年度より新潟での留学生生活をスタートした。大学では、留学生と日本人が交流するサークル「CEC (International cultural-exchange circle)」を立ち上げ、他の留学生とともにイベントの企画等を行っている。



「マレー料理教室の開催」

- 1 使用する食材は丁寧に下ごしらえをする。
- 2 完成した「ナシレマ」。盛り付けされている楕円形の揚げ物が「カレーパフ」。

私は今年の4月に留学生交流委員に任命されて以来、さまざまな国際交流活動に参加しました。地域住民や日本人学生との交流活動はもちろん、自分でイベントを企画し実施しました。活動の一例として、6月に内野町にある西地区公民館でマレー料理教室を開催したので、ご紹介します。

マレー料理教室を開いたきっかけは、マレーシアの料理を日本人にアピールしたいと思ったからです。マレーシアの料理の多くは香辛料が効いていて辛いイメージがありますが、実はココナッツミルクや砂糖が入っていて、辛くて甘い食べ物が多いです。それなら、辛いものが苦手な日本人にも受け入れられやすいのではないかと思います、マレー料理教室を開催しました。

安定した味を保つため事前に試食会を実施し、日本人に味わってもらいました。試食会で作った料理の手順を記録し、レシピを作りました。参加者の中には外国人の方がいて、レシピを英語版と日本語版に分けて作成しました。また、準備が大変だと思ったことは、会場の予約です。大学の近くに料理教室を開催できる場所があるのか分かりませんでした。幸いなことに、日本人の知り合いの中に西地区公民館で似たような活動を行った方がいて、その方が会場の予約をしてもらうことができました。

当日の朝は雨でしたが、マレーシア人を含めて十数人がイベントに参加し

てくれました。参加者はグループに分かれて、代表的なマレーシア料理であるナシレマとカレーパフをレシピに従って調理しました。出来上がった料理は班によって辛くなったり甘くなったりしましたが、皆お互いの料理を交換して味わい、楽しい食事の時間を過ごすことができましたと思います。

このイベントを通じて、やはり「食」というのは、最も身近で最も基本的な日常的活動であり、ある国の文化を理解するには、食べることを通じて理解することが一番効率的だと思いました。料理教室という形で他国の文化を理解することは、異文化コミュニケーションとして実践もしやすく、参加者も楽しんでくれる内容だと思います。今後も、食文化に関する活動を続けていきたいです。



タン・チェイ・イェン

マレーシア出身 新潟大学工学部2年(新潟市)

国際教育交流団体 AFS のプログラムで、高校時代の約1年間を広島で過ごした。現在大学では国際ボランティアサークルに所属し、積極的に交流活動を行っている。マレー語、日本語のほか、英語、中国語を自由に使いこなすことができる。

異国での生活で心細い思いをしている方が、
母国語で相談できる心強い存在

外国人相談センター新潟が オープンしました！

令和元年10月1日、在住外国人の生活上のさまざまな困りごとに対して多言語で情報提供や相談対応を行う「外国人相談センター新潟」がオープンしました。新潟県の在住外国人は17,675人（法務省2019年6月）で、前年同月から約2,000人増加しています。国籍別で見ると、ベトナム国籍の方が急増しており、中国に次いで第2位となっています。このような状況から、中国語、ベトナム語をはじめ、計7言語の通訳員を配置し、それ以外の言語は通訳ソフトなどで対応できる体制を整えています。

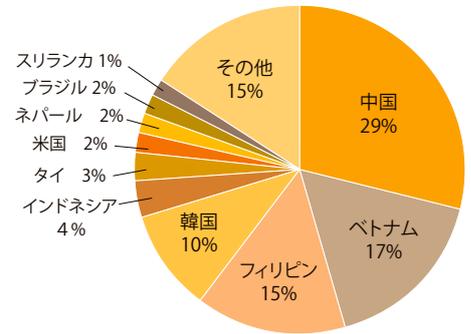
また、相談内容も労働、教育、医療、福祉など多岐にわたるため、公的機関や専門の関係機関と連携をとり、日本人の生活相談コーディネーターが必要に応じて適切な機関に迅速につなぐことで問題解決をサポートします。特に相談の多い、在留資格や、法律、子どもの教育に関する相談には専門家が直接対応できるよう、専門相談会を定期的に開催しています。

センターの職員は、普段から研修を重ねたり情報収集を行ったりして、より良い窓口になるよう日々心がけています。センター内はオレンジを基調とした明るい室内です。どうぞお気軽にお越しください！



通訳員の他、通訳ソフトなどにより74言語で対応できます。

外国人相談センター新潟
公式 Facebook



「法務省 在留外国人統計（2019年6月現在）」より

外国人相談センター新潟 Foreign Resident Consultation Center of Niigata

- 相談内容：在留資格、仕事、教育、医療、福祉など生活全般の相談や情報提供。
※公文書の翻訳や個人的・営利目的の通訳翻訳、通訳派遣は行っていません。
- 相談方法：来所、電話、Eメール
※予約不要、相談無料（通話料がかかります。）
住所 新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル2階
電話 025-241-1881 メール nia10@niigata-ia.or.jp
- 窓口開設時間：月曜～金曜 10:00～17:00（相談受付は16:30まで）
- 各言語の通訳可能時間



	月	火	水	木	金
日本語	10:00～17:00	10:00～17:00	10:00～17:00	10:00～17:00	10:00～17:00
中国語			10:00～17:00		
英語	10:00～14:00			10:00～14:00	10:00～17:00
フィリピン語	10:00～14:00				
タイ語		10:00～17:00			
ベトナム語		10:00～16:00			
スペイン語				10:00～14:00	
ポルトガル語				10:00～14:00	
その他の言語	10:00～17:00 通訳ソフトなどでの対応となります。				

※時間に変更になる場合があります。

- 専門相談 それぞれの分野の専門家が、直接相談に応じます。
教育相談：毎週火曜日 10:00～17:00（日本語、中国語、タイ語、ベトナム語、英語）
行政書士相談：毎月第4水曜日 10:00～17:00（日本語、中国語）
入管手続相談：毎月第2火曜日 13:00～17:00（日本語、タイ語、ベトナム語）
法律相談：毎奇数月第3木曜日 13:00～17:00（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語）
※予定が変更になる場合があります。
※専門相談は予約優先。

ゲン・ティ・トゥ・ハさん

2019年4月(株)東日本福祉経営サービス入社。もともと日本語に興味があり、「親元を離れて海外で生活してみたい!」という思いから高校卒業後すぐに来日。新潟県内の日本語学校で学んだ後、新潟産業大学で4年間経済学を学ぶ。

好きな食べ物はお寿司。中でもえんがわが大好物。



あなたに会いに!

企業へGO



このコーナーでは、新潟県内の企業で働く外国籍社員へのインタビューをご紹介します。出身国と日本、両方の文化的な違いを受け入れ、日々仕事に励む外国籍社員の姿取材しました。

今回は、(株)東日本福祉経営サービス様を訪ねました。

ベトナム出身

ゲン・ティ・トゥ・ハさんのご紹介

—現在のお仕事について教えてください。

私が働いている(株)東日本福祉経営サービス・グループでは、2020年度、運営する介護施設で初めて18名のベトナム人技能実習生を受け入れる予定です。私は人事・総務部に所属していて、技能実習生の皆さんが安心して仕事ができるよう、生活面の支援などを行います。具体的には、技能実習生が来日するまでの間に生活マニュアルを作成するなど、さまざまな準備を行っています。

—技能実習生のサポートを行っているんですね。他にはどのような業務がありますか?

マニュアルの作成以外にも、受け入れ予定の施設を回って、技能実習生を受け入れる上で知っておいてもらいたいことについて、職員の方々にお伝えしています。定期的な受け入れ施設に通うことで、「ベトナムの技能実習生はこんな方々です」とか、「いつ頃入社予定です」など報告しながら、職員の方々とのコミュニケーションを取っています。

先日はベトナムで、受け入れ予定の技能実習生たちを迎えて壮行会を開催しました。壮行会では、日本語とベトナム語の通訳のほか、会社の紹介をベトナム語でプレゼンしました。とても緊張しましたが、技能実習生の皆さんと入社前にお会いすることができて、嬉しかったです。

—仕事をしていて楽しいと感じるのは、どんなときですか?

自分が持っている知識や、これまで学んできたことを活かして、人の役に立てたときです。また、私がする仕事によって、誰かが喜んでくれたときです。

—では、仕事をしていて大変だと感じるのはどんなときですか?

日本語です(笑)。入社してからいろいろな書類の作成がありますが、使用する言葉が適切かどうか、インターネットで調べながら行っています。提出する書類は、先輩方にチェックをしてもらいます。仕事をしながら日本語の勉強もしています。

—とても努力家ですね。入社してから、学生時代と比べて変化はありましたか?

考え方が変わったと思います。学生時代は個人の責任で、自分が何か間違ったりミスをしたとしても、自己責任という考え方でした。ですが、入社してからはそうはいけません。周囲の方々や、会社のことを考えなければいけないため、慎重に行動しなくてはならないと考えるようになりました。

—休日はどうのように過ごしていますか?

最近は、国際交流のイベントに参加するようになりました。「ベトアジ」というベトナム料理教室があって、そこに参加しています。つい先日も、パインシャオというベトナム風お好み焼きと、黒もち米ヨーグルトを作りました。

—今後の目標についてお聞かせください。

自分の仕事に全力を尽くしたいと思っています。これから来日するベトナム人の技能実習生たちから、「入社して良かった」と思ってもらえるように、頑張りたいと思います。また、技能実習生の皆さんには、仕事だけでなく日本の魅力や新潟の魅力を伝えて、それらを体験する機会を作ってあげたいなと思っています。

—日本での就職を目指す留学生へメッセージをお願いします。

日本に留学してきた学生の皆さんには、せっかく日本に来たのだから、人と接して、自分から話しかけてみてほしいと思います。そうすることで、いろいろな出会いが始まって、チャンスもやってくるはずですよ。ぜひ、一歩踏み出して、人と関わってみて欲しいです。私もこれから社会に貢献できるように、さまざまなことにチャレンジしていきたいと思っています。

お世話になりました

今回の取材では、社長付特命部長の久保田啓介様よりご案内いただきました。介護施設の開設から運営までを行い、新潟と関東で約50の事業所を展開しているそうです。

昨年度から採用を始めた外国籍社員はトゥ・ハさんを含む3名で、「初めは日本人の社員と同じように接しなきゃ、と思っていました。ですが、一緒に仕事をしていく中で、彼らの個性や国民性は変える必要はなく、そのまま受け入れて、新しい意見があったらそれらを上手く取り入れていけたら良い、と考えるようになりました」とのお話がありました。また、外国籍社員とともに取り組む仕事について、「目に見えて成長したいという意欲を感じますし、その結果も見える。一緒に仕事をしていて楽しいです」とのお話がありました。

(久保田啓介様(右))



NIIGATA 春の楽しみかた ～留学生特派員 Team BEGIN～

故郷を離れ新潟で学生生活を送る3名の留学生が、新潟でおすすめのお花見スポットについてご紹介します！

📍 新潟市

日本での春の楽しみかたと言ったら、お花見は欠かせないですね。新潟市にも、桜の名所がたくさんあります。私のおすすめは、白山神社です。白山神社では、ちょうどお花見の時期に「白山祭り」があるので、お祭りとお花見が同時に楽しめます。また、神社のすぐ隣には、信濃川の川沿いを歩くことができる「やすらぎ堤」があるので、お祭りを楽しんで、桜を見ながら万代まで歩いて行くのも、気持ちの良いお散歩コースとなるでしょう。また、夜にはライトアップされた夜桜を楽しむことができます。新潟駅からのアクセスも良いので、ぜひ気軽に足を運んでみてください。

しかし、このような名所は有名である分人がたくさん集まるので、ゆっくりとお花見を楽しむのが大変かもしれません。そんな時は、近くで自分だけの桜の名所を探してみるのはいかがでしょうか？昨年私は、自分が住んでいる町の小学校のグラウンドで、友人たちと一緒に桜を楽しんできました。皆さんも今年の春は、自分だけの桜見スポットを探してみてください。ただし、新潟の4月はまだまだ寒いことが多いので、出かける前は、必ず天気予報のチェックを忘れないくださいね！



パク・ソンヒョン

韓国出身
新潟大学法学部3年

特技：何かをまとめること—まとめノートを作ったり、授業の発表レジュメを作ったり等
最近覚えた日本語：「あぐら鼻」
韓国で流行っているもの：「ペンズ」—韓国教育放送公社（EBS）によるペンギンのキャラクターです
一言メッセージ：
「まだまだ寒い日が続きますね！体にはお気をつけて、楽しい春をお過ごしください！」



バウベクズ・ジャンサヤ

カザフスタン出身
事業創造大学院大学2年

特技：歌、写真
最近覚えた日本語：「因果応報」
カザフスタンで流行っているもの：
SNS（特にInstagram）、日本式回転寿司店
一言メッセージ：「新潟は楽しいですよ！」

📍 五泉市

ユーラシア大陸の真ん中にあるカザフスタン出身のサヤです。新潟市内にある事業創造大学院大学で、MBAの勉強をしています。趣味は旅行をすることや写真を撮ること、歌うことです。新潟に来て2年目で、これまで県内の様々な場所を訪れました。誰よりも新潟を楽しんでいる自信があります！

大好きな新潟の中でも、私は春の新潟が一番好きです。春には、県内各地でたくさんのきれいなお花を見ることが出来るからです。4月になると桜が満開になり、白山公園やすらぎ堤にずらりと並んだ桜の下でお花見をしたり、夜桜を眺めながら考えごとをしたりするのが毎年の楽しみです。さらに、4月中旬になると、新潟県のシンボルのひとつであるチューリップが見ごろです。生産地の五泉市では、毎年チューリップまつりが開催されます。150万本のチューリップ畑が、まるでカラフルな絨毯のように咲き誇り、とてもきれいです。そして、5月には新潟市内にある北方文化博物館で藤の花が咲きはじめます。大きな藤棚の下で、ゆったりとした時間を過ごすことができます。私は、お花を眺めながらゆっくりと時間を過ごすのが大好きです。今年の春は、ぜひ皆さんも美しい花をめぐる素敵な旅を体験してみてください！

📍 上越市

私は長岡大学で留学生として学びながら、新潟県の四季折々の魅力を感じてきました。夏には、故郷のモンゴルでは経験したことのない海へ行ったり、秋には紅葉を見たり、冬は厳しい寒さを通じて、まるでモンゴルにいるような懐かしい気持ちになりました。新潟で、季節の移り変わりをとても楽しんでいます。

そんな私にとって、春の新潟の景色が一番印象に残っています。去年、私は友人たちと、上越市にある高田公園の「高田城百万人観桜会」に行きました。とても広い公園にたくさんの桜が咲いていて、あんなに美しい景色を生まれて初めて見ました。桜だけでなく、さまざまな露店や花火の打ち上げも楽しめました。その日は昼から夜まで桜の景色を堪能して、友人たちと楽しい時間を過ごすことができました。私は、できれば今年の春に、両親を日本へ招待したいです。もし両親が新潟に来てくれたら、「高田城百万人観桜会」に連れて行きたいです。私の母はお花が大好きなので、新潟の美しいお花見を体験したら、すごく喜ぶと思います。両親には、たくさんの写真を撮ってお花見の雰囲気を楽しんで行ってもらいたいです。



エルデネバト・ノミンエルデネ

モンゴル国出身
長岡大学経済経営学部3年

特技：絵を描くこと、料理を作ること
最近覚えた日本語：「自立つ」、「克服」、「チャライ」、「メリハリ」、「ぶっちゃけ」
モンゴル国で流行っているもの：PUBG モバイル、テラヘルツプレスレット
一言メッセージ：「新潟の方々には、モンゴル産の暖かい羊ウール靴下をおすすめします！」



令和元年度留学生就職支援セミナーを開催しました！



令和元年 11 月 1 日（金）朱鷺メッセにて、日本での就職を目指す留学生が就職活動の基礎知識や面接マナー、在留資格等について学ぶための「令和元年度留学生就職支援セミナー」を開催し、留学生 82 名、企業関係者 12 社 18 名が参加しました。

講演①「日本の就職活動とは～留学生が知っておくべき基礎知識～」では、新潟新卒応援ハローワークの水品優子氏より、日本の就活ルールや面接マナーについてお話しいただきました。

講演②「留学生の就職活動による在留資格について」では、東京出入国在留管理局の安本大輔氏より、留学生の日本企業への就職状況等を交えて、就職に伴う在留資格について分かりやすくご説明いただきました。

後半は参加企業による事業紹介を行い、人材派遣、介護、機械加工、印刷、小売り、宿泊等の事業を展開する各企業より、会社概要や求める人材像等についてお話しいただきました。セミナー終了後の交流会では、留学生が興味のある企業担当者に質問するなど、自由に会話や情報交換を行いました。

令和元年度災害時外国人支援研修を開催しました！

令和元年 12 月 8 日（日）朱鷺メッセにて「令和元年度災害時外国人支援研修」を開催し、40 名（うち外国出身 3 名）が参加しました。

前半は、「災害時の外国人支援活動～新潟中越沖地震からの軌跡～」と題し、特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事の高木和彦氏より講演がありました。外国人被災者を情報過疎にしないために、避難所などの掲示をマークで表す情報の伝え方や、日頃から地域での関係性作りの大切さをお話しいただきました。

後半は、2 名のアドバイザーより「地震と水害の対応の違い」や「やさしい日本語」での対応方法などを学び、その後「災害発生時の情報発信と相談対応」をテーマに各グループで 8 つの事例について検討し、全体で考えや対応方法などを共有しました。参加者それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。



令和元年度国際理解教育プレゼンテーションコンテストを開催しました！

令和元年 12 月 21 日（土）、朱鷺メッセ国際会議室（マリホール）で、14 回目となる国際理解教育プレゼンテーションコンテストを開催しました。今回は中学生部門 9 チーム、高校生部門 11 チームが出場し、世界の貧困問題、環境問題、多文化共生などについて、それぞれの視点で調査研究を行った成果を発表しました。特に今年はプラスチックごみの問題を取り上げるチームが多く、持続可能な社会の実現に対する意識の高まりを感じさせました。

中学生部門最優秀賞の AB5（エービーファイブ）（村上市立荒川中学校）は、西アフリカ ベナンの布地「パーニユ」を使った国際協力のアイデアを、高校生部門最優秀賞の HITOSHEEEEEZ（ヒトシーズ）（上越高等学校）は、世界には様々な価値観が存在し、違いを理解することで国際理解を深めようと表現力豊かに訴えました。最優秀賞を受賞した 2 チームは、3 月下旬に台湾スタディツアーに派遣されます。

【中学生部門】

●最優秀賞

AB5（村上市立荒川中学校）「パーニユから広がる国際協力」

●優秀賞

Glocal 部 3 年（県立燕中等教育学校）「世界を change!! ～私たちが考える魔法の支援～」
 でおきりぼ拡散（新潟明訓中学校）「わたしの普通、あなたの普通？」

●審査員特別賞

三条第二中学校（三条市立三条第二中学校）
 「それって私たちだけがすべきこと？大人の責任って何だろう？」

【高校生部門】

●最優秀賞

HITOSHEEEEEZ（上越高等学校）「君のメガネ、僕のメガネ～みんなちがってみんないい～」

●優秀賞

ひろいさと（県立新潟高等学校）「シン・おもてなし」
 AILA 2019（個人）「打倒！ジャパニーズ偏見!!」

●審査員特別賞

TEAM-MERMAID（個人）「海と陸は誰のものか？」



中学生部門最優秀賞 AB5



高校生部門最優秀賞 HITOSHEEEEEZ

NIA 賛助会員募集！

新潟県国際交流協会では、国際協力・国際交流等の事業を支えてくださる団体と個人の賛助会員を募集しています。

参加資格：当協会の目的に賛同される団体または個人

会費：団体会員 1 口 10,000 円 / 年度 (1 口以上)

個人会員 1 口 3,000 円 / 年度 (1 口以上)

募集期間：通年

会員期間：令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

○団体・個人会員共通特典

当協会の刊行物の送付、イベント案内チラシ等の送付、国旗・民族衣装・図書等の貸出

○団体会員の特典

国際化推進活動助成金の利用、印刷機の利用、国際交流プラザの貸出及びパネル展示

○個人会員の特典

県立美術館入館助成券の進呈、県内施設・レストラン等の割引利用

○申し込み方法

当協会ホームページ「県協会からのお知らせ」をご覧ください。下記までご連絡ください。



新潟県国際交流プラザ

JICA 新潟デスクだより ¡HOLA! (スペイン語でこんにちは)

はじめまして！昨年 10 月より JICA 新潟デスク (新潟県国際協力推進員) を引き継ぎました、宮 由衣 (みや ゆい) です。

私は大学時代、きれいな海に憧れて行ったパラオ共和国という国ではじめて発展途上国に足を踏み入れ、「日本より経済的に貧しい」という発展途上国のマイナスイメージとは全く違う、自由な現地の人々に心動かされました。それから国際協力について学ぶために大学院に進学したのですが、「もっと現地のことを知りたい！」と思い、社会人経験もないまま、勢い任せに青年海外協力隊員としてエクアドルへ。小中学生の情操教育に携わりました。

エクアドルでは楽しいことも苦しいこともたくさんありましたが、自分が現地の人のためにと思ってやったことと同じかそれ以上に、周りの人々に助けられ、支えられることが多かった 2 年間でした。また、自分と異なる文化を持つ異国の人と友達になり、一緒に仕事をする中で、「自分で壁さえ作らなければ、どこの国の人とでも協力し合えるんだ」ということを肌で感じることができました。

推進員としての活動を通して、新潟県の JICA 窓口として、皆様に世界の広さ・国際交流の面白さを感じていただくお手伝いをしていきたいと思っています。よろしくお願いします！



留学生が日本で感じたエピソードを『マンガ』でお送りします！

第 4 弾

【四季の街】

台湾出身
日本アニメ・マンガ専門学校
マンガ・イラストマスター科

ペンネーム
ララマチル

